

検査で肺MAC症と診断されました。医師からは「薬はあるものの副作用が出ることもあり、現状維持しか期待できない」と言われました。症状は痰と時々現れる息苦しさですが、寝ていれば治ります。この先どう向き合えばいいのでしょうか。(78歳、女性)

肺MAC症

KARTE カルテ Q & A



米田勉医師

見られますが、最近では原因がはっきりしないものの、基礎疾患のない中年以降の女性も増加しています。

肺MAC症とは非結核性抗酸菌の中のMAC(Mycobacterium avium complex)という菌に感染した状態をいいます。

初期の場合は健診などで偶然発見される方が多く、せき、痰などの症状で診断される方もいます。進行すれば息切れや血痰、微熱、体重減少などの症状が出ます。無症状で肺

類の抗生物質を使って最低1年以上治療します。ただし治療終了後に再発、再治療になる可能性も高く、菌自体が体の中から完全に消失することはありませんが、陰影を縮小して症状を改善させることは可能です。

治療を考慮するのがよいと考えます。経過観察と内服治療のどちらを選ぶかは患者さん個々の年齢や症状、肺病変の程度により検討する必要がありますので、担当医と十分相談して決定してください。

観察か治療状況に応じ検討を

す。人から人へはほぼ感染しません。

非結核性抗酸菌は自然環境の水系や土壌中などに広く生息し、菌を含む水滴やほこりなどを吸入し感染すると考えられています。肺に基礎疾患(気管支拡張症や慢性閉塞性肺疾患など)を持つ人に多く

の陰影が小さいケースや高齢の方は、3〜6カ月ごとを目安に定期的にエックス線検査をしてフォローします。軽症の場合は自然治癒することもあります。

せき、痰、息切れなどが強かったり、肺の陰影が大きかったりする場合、3、4種

多く、治療が完遂できないケースも少なからずあります。この疾患は進行が非常にゆっくりしていることが多いので、日常生活に支障がなければ、定期的にエックス線検査で経過観察し、せき、痰などが強くなったり、病変の範囲が大きくなったりしたときに

◇第1、3、4日曜に掲載します。
(兵庫県内科医会、米田勉II伊丹市、よねだ内科クリニック)